

平成 21 年度【「基礎・基本」定着度調査】 結果の概要をお知らせします

実施期日
平成 22 年 1 月 14 ～ 15 日

実施学年

小学校第 5 学年
中学校第 1・2 学年
県内すべての公立小・中学校で実施

実施教科

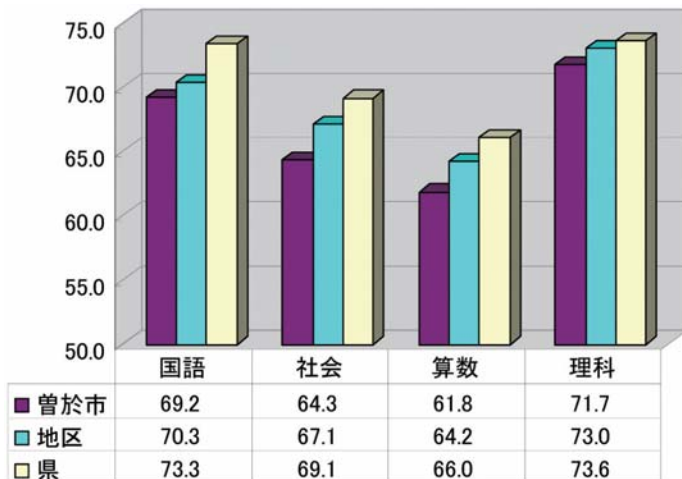
小学校 国語・社会・算数
理科
中学校 国語・社会・数学
理科・英語

調査の趣旨・目的

基礎的・基本的な内容及び活用する力について、県全体の定着度の状況を把握することにより、各学校等での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図るために実施しています。

この調査結果は、学力の特定の一部であり、児童生徒の学力のすべてを表しているものではありませんが、結果を把握・分析することにより、学力に関する課題を明確にし、その改善を図ることに役立てていきます。

<小学校 5 年生>

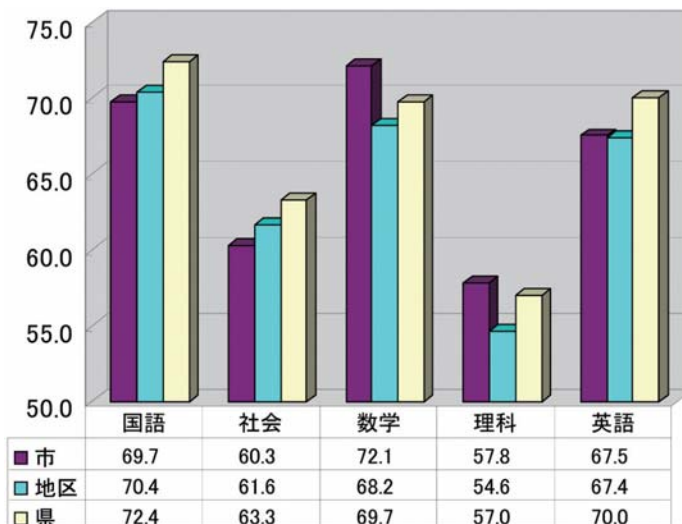


4 教科とも地区・県の平均通過率を下回っています。

しかし、理科は概ね基礎・基本の定着は図られています。小学校では、表現力の落ち込みも目立っているため、どの教科においても「書くこと」を重視した指導が大切です。

また、学校と家庭が連携して、「読み・書き・計算」の練習を毎日繰り返し行うことも大切であり、家庭学習 60・90 運動をもとに、テレビ視聴時間を考えた計画的な家庭学習を行うことが、学力向上につながります。

<中学校 1 年生>

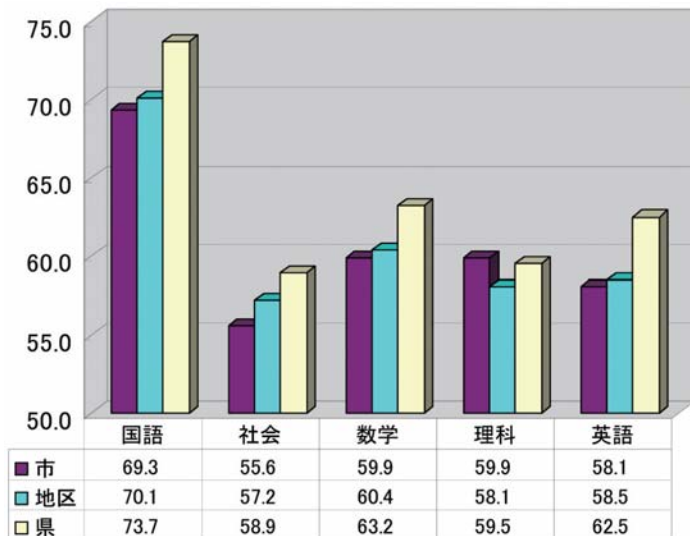


数学・理科が県・地区の平均通過率を上回っています。また、英語が地区の平均通過率を上回っています。社会と理科においては、今まで以上の努力が必要です。

中学校 1 年生においても毎日の「読み・書き・計算」で力をつけていくことは欠かせないことです。

また、落ち込みが目立つ理科については、視覚的に実感しにくい現象の理解が不十分なことから、実験や観察の仕方をより一層工夫することが大切です。

＜中学校 2 年生＞



理科が県・地区の平均通過率を上回っている以外は、すべての教科で下回っています。中学校2年生の社会科では、資料から情報を読み取り計算したり、出来事に関連付けたりすることに課題があることから、資料の読み取り方や分析の方法等をさらによく学んで、資料活用の技能・表現力を身に付けていくことが大切です。

英語では、「表現の能力」及び「言語知識」について課題があることから、「書くこと」の力を高めるための指導が必要です。そのためには、表現に必要な語彙や文の構造についての口頭練習をすることが大切です。

『市の学力向上への取組』

1 そおっ子の「夢」育み支援事業の推進

オリンピックで活躍したトップアスリートや芸術家等を招き、講演や実技をとおして知識や技能を学ばせ、豊かな心や感性を育むだけでなく、夢や目標、そしてこれをエネルギー源とする「やる気」をもって努力することの大切さを学ばせます。

【これまでの講師たち】

- 高山 樹里 (アテネオリンピック女子ソフトボール選手：投手)
- 武田 双雲 (NHK大河ドラマ「天地人」の題字を書かれた書道家)
- 遠藤 彰弘 (元Jリーグ選手、アトランタオリンピックサッカー選手)
- 宇津木妙子 (シドニーオリンピック、アテネオリンピック全日本女子ソフトボール監督) など

2 市学力向上対策研究協議会の充実

(1) 「指導と評価」フォーラム開催 (平成 22 年 8 月 2 日：末吉中央公民館)

全職員を対象に、大学教授 (中教審委員) を講師に招き、学力に関する各種検査を具体的に生かすための実技講習会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。

(2) 「夢」実現チャレンジ講座の開催 (平成 22 年 8 月 5、6、10、11 日：末吉総合センター)

市内のそれぞれ異なる中学校に在籍する生徒たちが一堂に会し、切磋琢磨しながら学習することで、より明確な学力向上への意欲を喚起するとともに、基礎学力の確実な定着を目指します。

また、高校の専門性を生かした学習に触れることで、学ぶ楽しさや学問への興味・関心を高め、将来への大きな志や夢を育むとともに、より高い目標に向かって取り組む意欲を喚起します。

(3) 市学力向上共通実践 (重点指導) 事項等の推進

- ア 電子黒板等を活用した ICT 機器の効果ある活用を図ります。
- イ 鉛筆の握り方、大きな声での発表など、学習のしつけを徹底します。
- ウ 速読・速書・速算などの三速運動を推進します。
- エ テレビ・ゲームの時間を短くして、家庭での学習時間を十分に確保した家庭学習 (60・90 運動) を推進します。